

肝胆膵内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	肝門部悪性胆管狭窄に対する Side-by-side 法による両葉金属ステント留置後の Reintervention の検討
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	肝胆膵内科
研究責任者	肝胆膵内科 (職名) 助教 (氏名) 井上匡央
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	肝門部悪性胆管狭窄に対する Side-by-side (SBS)法による両葉金属ステント留置後の再治療(Reintervention)の治療成績を明らかにすることを目的としています。
対象となる患者さん	愛知医科大学病院にて 2002 年 1 月以降に、肝門部悪性胆管狭窄に対する SBS 法による両葉金属ステント留置を施行された方のうち、ステント機能不全に対して Reintervention を施行された患者さん。
研究の方法	診療録(カルテ)から、治療に関する情報を収集し、ステント留置に関する検討を行います。具体的には病名や臨床経過、内視鏡検査、CT 検査、X 線検査などの画像所見や血液検査所見などの項目を参照させていただきます。利用する情報から、お名前、住所など個人を特定できる個人情報は削除して利用します。また研究の結果が学会や医学論文などで公表される場合がありますが、患者さん個人を特定出来るような情報は一切含まれません。研究計画や研究の方法についての資料を入手・閲覧することを希望される場合は担当医師にその旨をお伝えください。個人情報保護やこの研究の実施に支障を来さない範囲で提示いたします。
研究期間	倫理審査承認日 ~ 2023 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報	情報：診療録に記載された情報、血液検査結果、画像データ等。
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先

は提供を希望しない 場合	せ先まで申し出てください。ただし、試料・情報が個人を識別できる場合 のみ対応可能です。
その他	なし
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部内科学講座（肝胆膵内科） 担当者：(職名)助教 (氏名)井上匡央 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 23480）